

News Letter 2025年11月号

金融庁が後押しする新制度「事業性評価」 新しい融資評価方法が来年スタート！



経営革新等支援機関推進協議会

CONTENTS

- 1 事業性評価とは
- 2 従来の融資との違い
- 3 評価される主な項目
- 4 事業性評価の3つのメリット
- 5 利用時の注意点
- 6 おすすめの企業と準備のポイント

① 事業性評価とは

財務内容や担保・保証では測れない企業の事業内容や将来性を評価する新しい融資の考え方です。財務面だけでなく、企業の強みや成長性に基づいて資金調達の可能性を広げる仕組みです。

こんなお悩みはありませんか？

- 創業間もなく実績が少ない
- 先行投資が大きく赤字が続いている
- 担保や保証人が用意できない
- 将来性はあるのに融資を受けられない



従来は見過ごされていた優良企業への資金供給も後押しとなるでしょう！

② 従来の融資との違い

従来評価		事業性評価
● 決算書の財務データ ● 担保 ● 連帯保証人	重視する要素	● 事業内容 ● 成長性 ● 将来性
● 現時点の財務状況 ● 過去の実績	特徴	● 事業の将来見通し ● 市場での競争優位性
● 財務が弱いと融資は困難 ● 担保・保証がないと難しい	結果	● 事業見通しを重視 ● 担保や保証に依存しない ● 財務状況が悪くても将来性を評価した融資の可能性あり

従来は融資を受けにくかった企業にも資金調達の機会！
創業期やスタートアップ期の企業にとって、事業展開しやすい環境が整いつつあります。

③ 評価される主な項目

事業性評価では、数値データの定量評価と質的な情報の定性評価の両面から企業を分析



定量評価

- 売上高・利益率
- キャッシュフローの推移と予測
- 将来の資金需要の発掘



定性評価

- 市場動向と規制環境
- 商流分析(サプライチェーン)
- SWOT分析(強み・弱み・機会・脅威)
- 経営者の資質(ビジョン・経験・能力)

定性評価と定量評価との組み合わせによって将来的な成長性を多面的に評価でき、適切な融資判断が可能になります。

④ 事業性評価の3つのメリット

1. 融資を受ける機会が増加

創業期やスタートアップ企業でも、将来性があれば融資を受けられる可能性が広がります。財務状況が厳しくても事業の成長性が評価されます。

2. 産業の活性化

資金調達が容易になることで事業拡大が促進され、雇用創出や地域経済への波及効果が期待できます。優れた技術や事業アイデアの実現を後押しします。

3. 金融機関との関係強化

「単なる借入先」から「**成長の伴走者**」へと関係が進化。
対話に基づく継続的な経営支援や事業機会の紹介など、多面的なサポートを受けられます。

一時的な業績悪化時の資金繰り支援、事業拡大時の追加融資、新たなビジネスチャンスの紹介 など

⑤ 利用時の注意点

👉 事業性評価のみで融資可否が決まるわけではない

従来の財務審査と併用して判断されるため、基本的な財務状況も重要です。

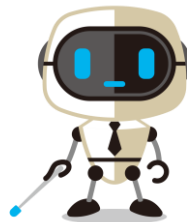
NG 基本的な財務状況があまりにも悪い場合、返済能力に大きな懸念がある場合。

👉 金融機関により取り組み度合い・基準に差がある

評価方法にルールはないため、各金融機関の事業性評価への取り組み状況を事前に確認しましょう。

👉 融資後はモニタリングの準備が必要

定期面談・実績共有を通じて金融機関との信頼関係を構築していきましょう。



⑥ おすすめの企業と準備のポイント

こんな企業におすすめ



- 創業間もない企業
- AI・IT系スタートアップ
- 研究開発型企业
- 先行投資が大きい成長志向企業

融資申込みの準備ポイント



- ✓事業の独自性・将来性の明確化
- ✓市場での立ち位置を整理
- ✓SWOT分析の実施
- ✓説得力のある事業計画書の作成



最後までご覧いただき ありがとうございました

▼▼今回の内容の公的サイトリンクは概要欄へ▼▼



経営革新等支援機関推進協議会